

令和5年度群馬県立高崎東高等学校3学期終業式式辞

皆さん、こんにちは。令和5年度の第3学期は今日をもって終了となります。この年度は皆さんにとってどのような年度でしたでしょうか私の話としては毎回のことですが、是非振り返りと新年度の計画造りにこの儀式的行事である終業式と春季休業を活用してください。

ところで、私は3月25日で満60歳となり、校長職は今年度末で役職定年となります。こうして大勢の皆さんの前である程度まとまった時間の話をする機会は、この後の離任任式くらいでしょう。今日は本校の校歌にちなんだ話をしたいと思います。

先日、1年生の音楽でウクレレのワークショップがあり、音楽室にお邪魔しました。音楽室は眺望のいい部屋です。南の窓から南東方面を見ると、しだれ桜で有名な慈眼寺が目に入り、その北に高南中学校、そしてその北に元島名將軍塚古墳が見えてきます。東日本では初期の古墳の形状として前方後方墳が出現しますが、この元島名將軍塚古墳も前方後方墳で県内でも、そして東日本でもかなり古い古墳に属します。地図を見ると、この古墳から井野川右岸沿いに御伊勢山古墳、八幡山古墳と古墳が点在しています。この辺りから井野川を渡り右岸に行くと綿貫古墳群が見えてきます。国宝に指定された副葬品や埴輪が出土した古墳です。このように著名な古墳が多数存在しているこの地域は、古代においてこの場所が文化的な先進地であったことを示しています。当時としては高度な測量・土木技術、土器や埴輪などを作る技術が無ければ、古墳は造れないからです。

そしてこの地域的特色が、本校の校歌の2番に歌われているのです。「古墳の群れに影深し」とありますね。古代から脈々と受け継がれる地域の文化財を、宝を学んで、そして継承して、さらに次代へとつないでいく、それこそが同じく歌詞に歌われている「文化をになう誇り」になると思います。

ここで少し話題を変えますが、みなさんは「四月一日」という名字があることを知っているでしょうか、そしてその読み方についても。朝廷の組織の中に掃部寮（かもんのりょう）という役所があります。掃除（そうじ）、清掃の「掃」の字に部屋の「部」、そして学生寮の「寮」の字を用いて「かもんのりょう」と読みます。御所の中の調度品を整えたり、掃除をしたりするのがこの掃部寮の仕事です。この役所は平安時代になると自らの役所を運営する経費を賄うために役所自らが土地を持ち、そこから上がる収益で仕事をするようになります。2年生の日本史選択者の中で「官田・諸司田」というのを授業で習い覚えている人はいますか。掃部寮も皆さんが習った「諸司田」を持っていました。そして四月一日と十月一日は朝廷の衣替えの日です。旧暦ですから今より1カ月ほど先で5月に相当します。この日、掃部寮は大忙しです。皇族の方々の衣替え、家具などの調度品の入れ替え、そして掃除を行います。衣替えは衣服の中から防寒用の綿を取り除きます。つまり「わたぬき」です。「四月一日」は「わたぬきの日」と呼ばれるようになりました。そして掃部寮の土地に住んでいたたり、すでに綿貫と呼ばれる地に住んでいたたりした人たちも、「四月一日」を名字とする時、これを「わたぬき」と自称するようになったのです。

国宝を出土した観音山古墳がある綿貫町は、この掃部寮の土地、つまり諸司田であったことが分かっています。この一帯の地域は、古墳時代だけでなく平安時代も中央政府とつながりがあつた、朝廷の伝統行事である衣替えを支えていた土地です。

みなさんはこの地の高校である高崎東高校の一員です。文化の担い手であるという誇りを持って、今後も学習し、そして生活していった欲しいと思います。